

オーガナイズドセッション

■ 2026年9月1日(火) 9:30 ~ 11:30 | Ⅱ2階 OS会場4(BNC203)

ハイパースキャニングは社会的相互作用をどこまで理解できるのか？ — リアルタイム相互作用をめぐる認知科学的整理と展望 —

オーガナイザー:川崎 真弘 (筑波大学)、小池 耕彦 (理化学研究所)、田邊 宏樹 (名古屋大学)

話題提供・パネル討論:野澤孝之 (富山大学)・森本智志 (筑波大学)

企画趣旨と概要:

近年、ハイパースキャニングは、複数個体の同時計測を通じて社会的相互作用を捉える手法として、神経科学・心理学・工学などの分野で急速に普及している。一方で、ハイパースキャニングによって「何が新たにわかるのか」「相互作用をどのような理論的枠組みで理解すべきか」といった根本的な問いについては、分野横断的な整理や議論が十分になされているとは言い難い。本オーガナイズドセッションでは、ハイパースキャニングを単なる計測技術として紹介するのではなく、相互作用をリアルタイムに生成・変化する認知過程として捉え、どのように理解・モデル化するのかを認知科学的観点から議論する。実験室研究、実社会の相互作用研究、人-機械・人工システム研究を理論的に接続しながら、相互作用研究の現在地と今後の展望を整理することを目指す。セッションでは、オーガナイザーおよび話題提供者による問題提起を起点として、パネル討論とフロアを交えた全体討論を行う。理論研究、社会的相互作用研究、人-機械・ロボットインタラクション研究、発達・個体差研究など、多様な背景を持つ研究者との議論を通して、相互作用研究の今後の方向性を探る。

OS企画の目的:

- ・ リアルタイムな相互作用の理解とモデル化
- ・ 実験室研究と実社会の相互作用をどうつなぐか
- ・ 個体差・多様性を含めた相互作用研究の未来